

第1回「関西広域産業ビジョン」改訂委員会 議事要旨

- 1 とき 令和5年3月29日(水)午後3時から5時まで
- 2 ところ 大阪産業創造館 6階 会議室A・B
- 3 出席者 稲田座長、葛西委員、水野委員、野島委員、中山委員、早川委員、大平委員(小笠委員及び丸山委員は欠席)
金森広域産業振興局長、事務局

4 主な発言内容

(1) 議題1 座長選出と座長代理の指名

座長として稲田委員を互選により選出。稲田座長の指名により、水野座長代理を選出。

(2) 議題2 「関西広域産業ビジョン」の改訂に関する意見交換

ア 現状認識

- ・ 関西のポテンシャルが十分に活かされているとは言い難いとあるがその通り。活かすためによりどうするかということが重要。
- ・ 関西は首都圏に比べてデジタル化に遅れあり。個々の企業だけではなくサプライチェーン全体でデジタル化へ対応していく。こういうところに焦点を当ててビジョンを作ればいい。
- ・ 中小企業、小規模企業の現状がどうかということも考えないと。コロナの影響がまだまだ小規模企業には残っている。それと労働力不足、少子化の問題、これらは全てに絡む。

イ 将来像

- ・ 万博はあくまで契機。インバウンドが関西は日本の中でもかなり恵まれており、利益を得ている。将来像の「世界の中で輝き未来を牽引する関西」は、それほど違和感はないし、「産業人材が活躍する多様性」というのは非常に重要。
- ・ 「世界の中で輝き日本の未来を牽引する関西」は、せっかく万博もあるので、新しい産業を作るとか、新しい産業を牽引していくといったニュアンスが出てもいいのではないかと。
- ・ 文言で全て表すよりは、実行していくことが大事。投資を持続的にどうやって増やしていくのか、前向きな投資にどう持っていくのかという観点が一番重要。
- ・ 「多様な産業人材が活躍・共生する関西」とあるが、関西が魅力的でないと外国人は来ないし、域外からも来ない。要するにブランドがあれば来るとい

うこと。

- ・ 多様な産業人材とは、おそらく多様な付加価値を生む人材。これは、別に産業に限らず、学術あるいは文化芸術の中で付加価値を生む人もいる。そういう方々が活躍するような関西をイメージした方がいいのではないか。
- ・ 関西の売りをもっと前面に押し出す形にした方が対外的にも関西の紹介やPRがしやすくなるのではないか。
- ・ 産業人材について。あえて産業をつけるならもう少し説明すべき。単に人材でもいい。

ウ 目標値

- ・ 高い目標をめざすというメッセージであれば変えないのもわかるが、実現が難しくなっており、変更もありえる。
- ・ 現在のGRPは約 100 兆円。あと 17 年で 80 兆円の産業ができるのか。積み上げだけでは難しい。180兆円の達成が難しいからではなく、どこまでできるのかを考える方が、ただ下げるよりはいい。
- ・ 誰がこの GRP を担っているのか。それをどういう形で伸ばせば 25%に向かうのかを考える必要がある。そこに至る道筋がまだ見えない。
- ・ 失われた 30 年と言われている。これが 40 年や 50 年になるのではないかと不安。原因としては雇用制度やデジタル化の遅れなど様々。年功序列、終身雇用等メンバーシップ型から、例えばジョブ型に変え、それで新しい人材が付加価値をつけるようなことも併せてやっていかないと 180 兆円の達成ができない。
- ・ 2040 年までの額は内閣府公表の潜在成長率 0.5%で成長し続けると仮定して推計。過去数十年において関西の GRP が低迷している原因は投資不足。
- ・ 投資比率が1%上昇すると、成長率が 0.5%加速するという統計的事実があり、関西の GRP は 80 兆円規模なので、投資比率を1%上昇させるのに1兆円弱の事業があれば実現する。

エ ブランド、その他

- ・ 要は、関西の方が日本全体よりも成長が加速したときにこうなるという姿を見せて、その成長の中身を我々がしっかり考えて、関西の魅力を高めていけばいい。
- ・ 域内の人が域内でいかにお金を多く使っていくか。そのための域内の人の生活を豊かにするための産業であったりするのか、あるいは輸出するためにやる作業なのか。それは海外の人が欲しいブランドとして作り上げるかということ。
- ・ 2025 年万博で実験場を1回やりました、よりは、引き続き関西はそういう

未来社会に向けた実験をする場、実装する場なのだというメッセージを送ろう。そうすると、結果的に未来社会にいろんな実装がされ、魅力的な地域に。そこに関西のそもそものポテンシャルを活かしていけるという絵姿なのかと思う。

- ・ 未来社会の実験と、それから実装する場っていうのは、ぜひ最初に書き込んでいただきたい。最初にメッセージとして発信することが重要だと思う。
- ・ 人であればまさにインバウンド。人の数はそんなに増えなくても付加価値の高いインバウンドが多分実現している。そこをめざす背景には、関西のステージが上がっている、ブランド力が上がっているということ。
- ・ インバウンドについて。訪問地は大都市に集中。まだまだ地方拡大の可能性はある。万博で地方の魅力を知ってもらってリピーターになってほしい。
- ・ 観光産業をどう活性化させていくのかがわからない。入れる必要はないか。
- ・ 今後インフレ型の経済成長するのか。長期的な視点から経済成長率の数値を確認しておいた方がいいのではないか。
- ・ コロナにより東京一極集中に変化が見られたとあるが、事実として正しいか確認すべき。東京への転入が戻りつつあると認識。
- ・ 人材の確保・育成は強調して書いてほしい。